

竹内隆夫 教授 略歴・主要著作目録

略 歴 (学歴および職歴)

1967年3月	大阪府立四条畷高校卒業
1968年4月	早稲田大学第一文学部入学
1972年3月	同卒業
1972年4月	神戸大学大学院文学研究科修士課程入学
1974年10月	同修了
1975年1月	神戸大学文学部助手
1976年4月	金城学院大学文学部専任講師
1981年4月	同助教授
1990年4月	立命館大学国際関係学部助教授
1993年4月	同教授 (現在に至る)

研究業績

[編著]

- 『続・タイ農村の構造と変動—15年の軌跡—』 勁草書房, 2000年
『地域研究の課題と方法—アジア・アフリカ社会研究入門—』 [実証編] 文化書房博文社, 2006年
『アジア社会と市民社会の形成—その課題と展望—』 文化書房博文社, 2009年

[共著]

- 『社会学の諸問題』 (長谷川善計氏との共著論文) 晃洋書房, 1974年
『日本の社会』 晃洋書房, 1977年
『都市化と家族の社会学』 ミネルヴァ書房, 1986年
『東南アジア都市化の研究』 アカデミア出版会, 1987年
『タイ農村の構造と変動』 勁草書房, 1987年
『東南アジアの社会学』 世界思想社, 1989年
『日本社会の基層構造—家・同族・村落の研究—』 法律文化社, 1991年

- 『アジア太平洋新時代と日本』法律文化社，1992年
- 『社会学 理論・比較・文化』晃洋書房，1994年
- 『タイ：工業化と地域社会の変動』法律文化社，1995年
- 『文化の変容と再生』法律文化社，1996年
- 『変容する世界の家族』ナカニシヤ出版，1999年
- 『生活世界としての「スラム」』古今書院，2001年
- 『東アジア農村の兼業化』村落社会研究 40，農山漁村文化協会，2004年
- 『東アジアの家族・地域・エスニシティ』東信堂，2005年
- 『東アジア「地方的世界」の社会学』晃洋書房，2013年

[学術論文]

- 「近世宿場町の階層性と家族構成」『社会学年誌』14，1973年
- 「初期本百姓の家族構造と同族団の編成過程（一）」『金城学院大学論集』101，1983年
- 「タイ家族の構造」『社会学雑誌』2，1985年
- 「近畿村落の社会学的研究動向」『金城学院大学論集』120，1987年
- 「タイ親族の構造」『新しい社会学のために』第12巻3号，1988年
- 「初期本百姓の家族構造と同族団の編成過程（二）」『金城学院大学論集』130，1989年
- 「女性の働きと家・村・霊」『社会学雑誌』14，1996年
- 「現代家族への軌跡」『社会学雑誌』19，2002年
- 「泰国的経済発展と東北部農村」『南洋資料譯叢』No.2（厦門大学南洋研究院），2004年
- 「バーンと家族—タイ家族の基層を求めて—」『立命館国際研究』21-3，2009年
- 「タイの社会変動と東北地方住民の対応」『立命館経済学』58-5・6，2010年
- 「東北タイにおける稲作経営の変化」『立命館国際研究』25-2，2012年
- 「東北タイの農村工業」『立命館国際研究』26-4，2014年

[調査報告論文・研究ノート]

- “Two Forms of Ancestorworship in a Northeastern Village” *Villages in Thailand*（科学研究費（海外調査）助成報告書），1982年
- 「家族・親族の構造」『離島出身者の都市生活に関する実証的研究』（昭和58・59年度科学研究費補助金研究成果報告書），1986年
- 「南佐久郡小海町中間の近世期の家と同族」『家・同族団・村落の社会史』（昭和62-63年度科学研究費補助金成果報告書），1989年
- 「東部都市チョンブリー市周辺居住地区の形成と展開」『タイ国における都市・農村関係の新展

開一出稼ぎ労働を中心として』(昭和61~63年度科学研究費(海外学術研究)助成報告書), 1989年

“Industrial Development of Chonburi Province and Change of Rural Village on The outskirts of Chonburi City” *Labor and Life of Migrants in Southeast Asian Cities*
(平成3-4年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書), 1993年

「経済発展と東北農村の社会変容」『東南アジアにおける経済発展と農村の変容—15年の経験—』
(平成7-9年度科学研究費(国際学術研究)研究成果報告書), 1998年

「出稼ぎ労働—酒造出稼ぎを中心に—」『兵庫県内農村社会の変動過程に関する研究』(平成10-12年度科学研究補助金(基盤研究(A)(2))研究成果報告書), 2001年

「タイの経済発展と東北タイ農村」『通貨危機後の東南アジア諸国における企業・金融部門の改革・再編に関する実証的研究』(平成14年度~16年度科学研究補助金研究成果報告書), 2005年

「社会変動と農村家族—東北タイ農村の事例から」『21世紀東アジアにおける農村—都市関係の再編に関する研究』(平成15年度~18年度科学研究費補助金(基盤研究B1)研究成果報告書), 2007年

「タイ・ローイエット県調査報告」『東アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究』(科学研究補助金(基盤研究A)研究成果中間報告書), 2008年

「タイ農村の伝統的価値の持続と変容」『東アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究』(上記科研費研究成果中間報告書), 2009年

「東北タイにおけるローイエット県の位置」『東アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究』(上記科研費研究成果中間報告書), 2010年

「東北タイ農村の持続可能性—伝統とその変容からみえるもの—」『東アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究』(上記科学研究費研究成果報告書), 2011年

[その他の論文]

「市民啓発の現状と問題点」(長谷川善計氏と共著)『部落』32-12, 1980年

「異文化接触への進展と交流への課題」『国際関係基礎演習テキスト』, 1994年

[文献目録]

「タイ文献目録集」(1975-1990年)『東南アジア農村における社会変動に関する総合的研究』(平成2・3年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書), 1992年

「東南アジア文献目録集」(1991-2000年)『東南アジアの工業化と地域社会の変容』(平成

10-12 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））研究成果報告書，2001 年

[事典・辞典・文献解題]

「日本社会の家族的構成」『社会学—理論・学史・問題—』税務経理協会，1979 年

「用語解説（家族・親族分野）」『ポケット家政学辞典』有斐閣，1983 年

「タイの家族観」『事典家族』弘文堂，1996 年

「家族・親族」「家族計画」「屋敷地共住集団」「ローイエット」『タイ事典』めこん，2009 年

[その他]

「人口」『旭町誌』（資料編），1980 年

「人口」『旭町誌』（通史編），1981 年

シンポジウム「日本の家と同族」（司会）『社会学雑誌』4，1987 年

「東南アジアの家族変容」『CEL』41 号（大阪ガスエネルギー文化研究所），1997 年

「コメント」〈問題提起〉連続講座「国民国家と多文化社会」『立命館言語文化研究』9 卷 3 号，
1998 年

「『イエ』の意味とその変容」『Tradepia』No.329（日商岩井），1998 年

「コメント タイの国民統合」『アジアの多文化社会と国民国家』人文書院，1998 年

「史学・経済史学の研究動向 I 日本史」『有機農業運動の展開と地域社会』村落社会研究 33，
農山漁村文化協会，1998 年

[書評]

「むらの家族」（清水由文氏と共著）『ソシオロジ』第 21 卷 3 号，1976 年

「家族の社会学」『新しい社会学のために』第 4 卷 1 号，1977 年

「村落社会—構造と変動」（牧野由朗・交野正芳・黒柳晴夫氏と共著）『ソシオロジ』第 33 卷 1 号，
1988 年

「継承の人口社会学—誰が家を継いだか—」『ソシオロジ』第 46 卷 3 号，2002 年

[学会発表]

「合同家族（joint family）の解体と同族団の編成過程—信州佐久地方本間村の近世文書を中心
にして—」第 26 回関西社会学会大会，1975 年

「同族団分析の一視角」むら研究会第 7 回研究会，1977 年

「同族団理論の再検討」第 51 回日本社会学会大会，1978 年

「東北村落における先祖霊祭祀の重層性（タイ）」第 54 回日本社会学会大会，1981 年

「東北村落の家族構造（タイ）」第55回日本社会学会大会，1982年

「農村における人口流出のメカニズム（タイ）」第58回日本社会学会大会，1985年

「コミュニティの形成と移住の特徴」第61回日本社会学会大会，1988年

「女性の地位の変化と家族」タイ・セミナー第5回大会，1994年

「タイ東部における都市・農村の構造連関」第4回アジア社会研究会研究大会，1994年

「東北タイ農村の兼業化とその持続性への展望」第51回日本村落研究学会，2003年

